

事例43

< 事例概要 >

その他

- ① 幼児、生後直後より急性腎不全にて腹膜透析中、腹膜透析関連腹膜炎の患者。
- ② 血液透析導入のため、血液浄化用カテーテルを留置予定。
- ③ 身長92 cm。脱水あり。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 右内頸静脈より透視とリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。ガイドワイヤーを約15 cm挿入時、抵抗があった。カテーテル挿入後、ガイドワイヤーが抜去できなくなった。この間外筒から頸部周囲に大量に出血し血圧が低下。開胸し、ECMOを開始したが十分な流量が得られず。右開胸で血液約3000 mlを認め、肺尖部より胸腔内にガイドワイヤーの一部が突出し、同部位からの出血も確認。穿刺から約3週間後に死亡。
- ⑤ 死因は、出血。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有（ガイドワイヤーの金属部分らせん構造の間隙に三尖弁の細い腱索が食い込み、それに伴って弁尖も巻き込んだ状態）。